

研究員 の眼

注目が集まる？中国 A 株ファンド ～2017年6月の投信動向～

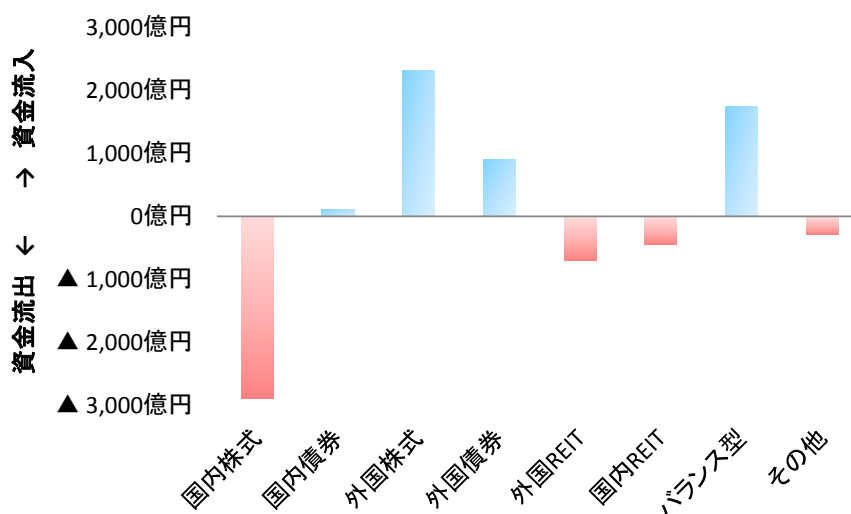
金融研究部 研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

国内株式から大規模な資金流出が続く

2017年6月の国内公募追加型投信（ETFを除く）の推計資金流出入を見ると、5月から引き続き国内株式からの資金流出が大きかった【図表1】。流出金額は、5月（3,500億円強）よりは小さかったものの、3,000億円に迫った。6月は日経平均株価が久々に2万円を超えるなど、月を通じて国内株式は高値圏で推移していた。そのような相場環境の中、アクティブ、パッシブとも利食いで売却する投資家が多かったようだ。

また、内外REITについても資金流出していた。特に、外国REITは700億円程度の資金流出であった。5月までも外国REITは資金流出が続いていたものの、5月の流出金額は100億円程度と資金流出が収まってきていた。それが、6月は米国REITが上昇に転じたこともあり、利益確定に動く投資家が多かったのかもしれない。

【図表1】2017年6月の国内公募追加型投信の推計資金流出入



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者集計。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

その一方で、外国株式、バランス型、外国債券については資金流入が5月から続いていた。しかも3つの資産クラスとも5月と比べて流入金額が大きかった。6月はフランスの選挙が無事終わり、米国利上げなどに伴い円安が進む中、投資家の警戒感が和らいだのかもしれない。特に、外国株式は3カ月ぶりに2,000億円を超えた。

個別ファンド別でも外国株式が人気

個別ファンドへの資金流入を見ても、上位4ファンドが外国株式ファンドであった【図表2】。1位の「キャピタル・ニューワールド・ファンド」は6月に新設された新興国株を中心に投資をするファンドである。その他、2位の「野村インド株投資」はインド株式、7位の「ダイワ・グローバルIoT関連株ファンド」と8位の「グローバル・フィンテック株式ファンド」はテクノロジー系の企業に投資するテーマ型のファンドである。

また、バランス型は2ファンドが上位に入った。4位の「LM・オーストラリア高配当株ファンド」は豪株とREITのインカムを狙った毎月分配型のファンド、10位の「アムンディ・ダブルウォッチ」はリスク・コントロールが組み込まれたファンドである。

外国債券も2ファンドが上位にはいった。3位の「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンドAコース」は為替ヘッジ有りの複合戦略型のファンド、5位の「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド」は毎月分配型の米高利回り債券のファンドである。また、上位10ファンドに入らなかったが、インド債券ファンドも人気だった。株式だけでなく債券でもインドの人気が高いようだ。

【図表2】2017年6月の推計純流入ランキング

順位	ファンド名	運用会社	6月の推計純流入	純資産6月末時点
1位	キャピタル・ニューワールド・ファンドBコース(為替ヘッジなし)	キャピタル・インターナショナル	416億円	415億円
2位	野村インド株投資	野村アセットマネジメント	400億円	3,709億円
3位	野村PIMCO・世界インカム戦略ファンドAコース(為替ヘッジあり 年2回決算)	野村アセットマネジメント	323億円	1,260億円
4位	LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	レグ・メイソン・アセット・マネジメント	310億円	6,035億円
5位	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	フィデリティ投信	279億円	9,766億円
6位	ひふみプラス	レオス・キャピタルワークス	261億円	1,978億円
7位	ダイワ・グローバルIoT関連株ファンド-AI新時代-(為替ヘッジなし)	大和証券投資信託委託	259億円	797億円
8位	グローバル・フィンテック株式ファンド	日興アセットマネジメント	240億円	581億円
9位	国際アジア・リート・ファンド(通貨選択型)インド・ルビーコース(毎月)	三菱UFJ国際投信	237億円	1,021億円
10位	アムンディ・ダブルウォッチ	アムンディ・ジャパン	203億円	1,136億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。ETF、SMA 専用ファンドは除く

【図表3】2017年6月の高パフォーマンス・ランキング

順位	ファンド名	運用会社	6月の収益率	過去1年収益率	純資産6月末時点
1位	USバイオ・ベンチャー(限定追加型)	ベイビュー・アセット・マネジメント	18.9%		28億円
2位	日興UBS中国A株ファンド	UBSアセット・マネジメント	12.2%	65.3%	37億円
3位	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース	野村アセットマネジメント	11.7%	31.4%	200億円
4位	フィデリティ・中小型株・オープン	フィデリティ投信	11.5%	38.2%	76億円
5位	フィデリティ・日本変革ファンド	フィデリティ投信	11.5%	45.2%	17億円
6位	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース	野村アセットマネジメント	10.5%	20.9%	203億円
7位	ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース	ピクテ投信投資顧問	9.5%	30.1%	228億円
8位	日興AM中国A株ファンド2	日興アセットマネジメント	9.2%	20.8%	26億円
9位	日興AM中国A株ファンド	日興アセットマネジメント	9.2%	20.8%	27億円
10位	日本株厳選ファンド・メキシコベソコース	大和住銀投信投資顧問	9.2%	52.7%	20億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。月末残高10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

値動きがより激しい中国 A 株ファンド

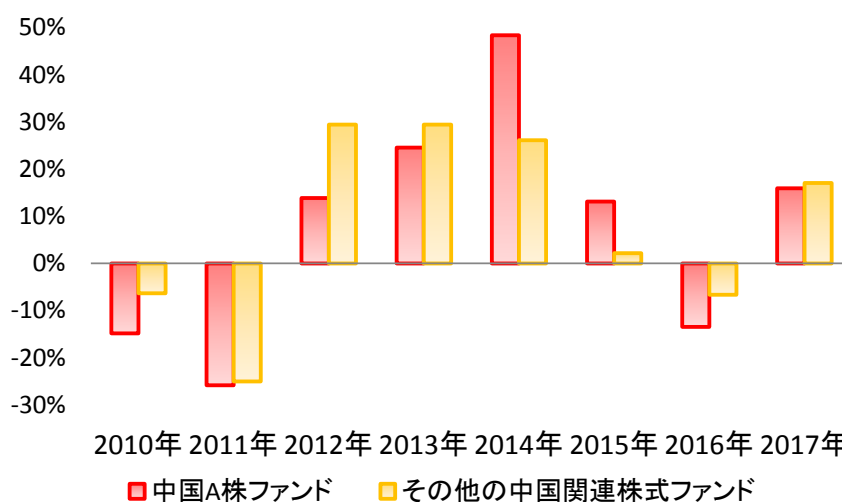
6 月にパフォーマンスが良好であったファンドを見ると、バイオ・ヘルスケア系ファンドが好調であった【図表 3】。米トランプ大統領の薬価改革が小幅になるとの観測が出たため、世界的に医薬株が大きく上昇したことが寄与したと思われる。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに中国 A 株（中国本土上場の人民元建て株式）が初めて組入れられることが発表されたことなどが追い風となり、中国 A 株ファンドのパフォーマンスも総じて良好であった。

実際に中国 A 株が MSCI のインデックスに組入れられるのは 2018 年 5 月以降である。ただ、この MSCI の発表をきっかけに、海外から中国 A 株市場に資金流入が増すことが期待されている。そのため今後、新たに中国 A 株ファンドの投資を検討する投資家も増えるかもしれない。そこで中国 A 株ファンドの過去のパフォーマンスはどうであったのか、その他の中国関連株式ファンド（以後、その他のファンド）と合わせて見た【図表 4】。

2010 年以降の年次収益率の推移から、中国 A 株ファンドは好不調の波が中国関連株式ファンドの中でも特に激しい傾向があったことが確認できる。2014 年と 2015 年はその他のファンドよりも大きく上昇していたが、その一方で 2010 年や 2016 年は逆に大きく下落していた。また、2012 年は大きく上昇しているものの、その他のファンドと比べて中国 A 株ファンドの方が 10% 以上劣後していた。一様に上昇局面で中国 A 株ファンドが優れているということでもなかったようだ。

香港株式市場や中国 B 株市場と異なり、今まで中国 A 株市場の主な市場参加者は中国国内の投資家などに限られており、多様な投資家が参加していなかった分、株価は一方方向に振れやすかったのかもしれない。今後、中国 A 株は市場参加者の変化に伴い傾向が変わる可能性があるが、投資を検討する場合には過去のパフォーマンスの傾向も十分に留意するほうが賢明だろう。

【図表 4】 中国関連株式ファンドの年次収益率



(資料) Morningstar Direct を用いて筆者集計。ともにファンドの実際の収益率の平均値(年初純資産加重)。
2017 年 6 月末時点で償還されていないイボットソン分類で「外国株式・中国圏型」のファンド。
中国 A 株ファンドは目論見書、直近(2017/5 月末)の月次レポートの資産配分比率などを参考に主として中国 A 株に投資しているファンドを筆者が抽出した。
なお、その他の中国関連株式ファンドの中にも中国 A 株にも投資しているファンドもある。
2017 年の収益率のみ 6 月末まで。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。